VOPバイブルスクール

5

真理への道講座

神

はじめに

「百貨店王と呼ばれたジョン・ワナメーカーはあるとき、伝道者ビリー・サンデーを案内して、自分の所有する大きな百貨店を見せ、こう言いました。『この店の中のものならば、何でもお好みにしたがって差し上げます』。しかしビリー・サンデーの求めたものは、『この世界最大のデパートの所有者の友情』でした。

今、多くの人々がモノを求めて、この世界にモノよりも尊いものがあることを忘れています。この世界を所有し、人を愛しておられる神の友情は人間の求め得る最高のものです。

あなたの選択は、あなたの生涯を決定するばかりでなく、家庭の幸福、社会の将来、国家の運命を決定するものとなります。今日、私たちの生活をきよめ、社会を救うのはイエス・キリストの福音より他はありません。この救いの福音こそ、今日の全世界にあるすべての問題に対して完全な解決を与えるものです。たとえ困難があるようにみえても、神に従う道は喜びに満ちたものであり、その彼方には永遠の希望と神の栄光が輝いています」（山形俊夫）。

この通信講座は、キリスト教の背景のない人々のために山形俊夫博士によって著されたキリスト教入門書『真理への道』（福音社）を通信講座用に編集したものです。１９５２年（昭和27年）に発行された名著が65年ぶりに通信講座となってよみがえりました。この通信講座を学ぶ皆様が、イエス・キリストにある恵みと救いの福音に触れることができるようにお祈りいたします。

この講座を勉強する方へ

・もしお持ちであれば、聖書を手元に置いて学びをはじめてください。
・最初に本編をお読みください。
・設問用紙は真ん中のページにあります。ホッチキスを外すか、コピーしてください。
・設問用紙に答えを記入し、郵送・FAX などでご返送ください。
・添削した設問用紙と次のテキストをお送りします。
・その他、具体的なことは、担当者にお問い合わせください。

神

神の存在に対する信仰は人間の存在とともに古いのですが、科学や哲学が発達してきて、これに対して批判を加えるようになってきました。また心理学的に神に対する信仰を分析する論も出てきたのです。そして、神の存在に対する信仰は何か迷信的なものであるかのように感じる人々が多くなってきました。こんな疑問をよく聞くことがあります。

「神は結局、人間の希望の投影ではないか」

「永遠を慕う人間の憧憬（どうけい）が形づくった概念ではないか」

もちろん人間の想像がつくった神もありますが、聖書の示している神は、人間の考えの投影以上のものです。神が要求なさる高い良心、完全な道徳性、どんな小さい罪をも見逃さない峻厳（しゅんげん）さ、あるいは敵をも受け入れる崇高な愛の精神などは、人間の希望や思索が形づくる以上のものです。

19世紀末より勢力を得てきた唯物論の考えも、神に対する大きな疑問を投げかけてきました。すなわち、目に見えないもの、測定できないものは、実在しない、神は目に見えないから、その実在は信じられないという考えです。

しかし、これはあまりに単純な考えです。また、人間の能力の限界を忘れた考えです。だれも「力」を見た人はありません。しかし「力」が作用したとき、起こる現象を見て「力」の存在を知るのです。少なくともある現象の原因としての「力」という概念を把握することができます。人体を解剖して、人格というものを見いだすことができないからといって、

人の人格を否定することは浅はかな考えであると言わなければなりません。

私たちが実在を認める方法は、必ずしも科学的方法によるものだけではありません。また認識の方法が、対象の範囲を決めるということもできるでしょう。

たとえば美を認める方法は、科学的な方法と違って、人間が本来持っている美に対する感覚なり判断なりを通してするのです。そしてここには直観的な要素が多く含まれています。しかしそれだからといって、美に対する認識はあやふやなものであると言うことはできないのです。

神は一つの人格として示されています。人格とは何かということはここでは触れませんが、私たちが普通の意味で理解しているように考えれば、人格を持っておられる神を知るということは、いわゆる科学的な方法のみではできません。人間の本質的な直観によるところが多いのです。

イエスは「神は霊であるから、礼拝する者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」（ヨハネによる福音書4章24節）と言われました。つまり、心の目が開けて初めて、神のみ姿を拝することができるというのです。このような体験を持つ人々について、イエスは「あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、さいわいである」（マタイによる福音書13章16節）と言われました。モーセやイザヤ、エゼキエルといった聖書の記者たちは、神のみ姿を見た経験を持っていたので、有神論を書く必要を感じなかったと思われます。

聖書は「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない」（ローマ人への手紙1章20節）と述べています。すなわち神は宇宙の創造者なのです。

よほどの懐疑論者でない限り、私たちをとりまいているこの世界の存在を否定する人はないでしょう。そして世界の存在を認める以上、これをつくった方があると考えるのは最も自然な考え方なのです。

ロバート・グリーン・インガーソルは19世紀アメリカの有名な不可知論者ですが、彼があるとき、やはり有名な説教家であった、へ

宗教と科学は対立する？

中世以来、科学と宗教、特にキリスト教との間に多くの対立がありました。最も顕著な例の一つはガリレオ・ガリレイでしょう。コペルニクスの地動説を支持する彼の立場は、異端であり無神論であるとされ、異端審問所は、この教えを放棄すべきことを命じました。真摯（しんし）な真理の探求者に加えられた多くの血なまぐさい迫害の歴史を読むとき、人は中世キリスト教の頑迷（がんめい）さ、ひいてはキリスト教そのものに対する憎悪の念すら感じるのも無理はありません。

このような科学と宗教の争闘は、ほとんど科学の勝利に帰したのです。実証的な方法をもって、科学は着々とその道を切り開いていきました。科学の本質を理解せず、宗教を知らない人々が科学は宗教と相容れないものであり、科学こそ、すべての問題を解決する力を持っていると思いこむようになったのも無理からぬことです。

しかしこのいわゆる科学と宗教の争いは、実は科学と神学との争いであって、アンドリュー・D・ホワイトも言っているように、「この闘争は科学と神学との闘争であって、科学と宗教とのそれではない。科学はむしろ真の宗教を高貴なるものとするのに貢献するものであり、科学を滅ぼそうとする神学こそかえって宗教の敵である」のです。

今日私たちがキリスト教の経典である聖書を開いてみると、自然科学の結果と何ら衝突するものを見ることはできません。

バートランド・ラッセルはこのように述べています。「科学によって与えられる正確な知識のみが必ずしも人類の必要とする一切ではない。人類はそうした知識の外にいかに生きるべきかについても、人間の追究すべき目標についても、また立派なものと下劣なものとの区別についての観念をも必要とする。この観念は、いわば人間が宗教、哲学、詩、あるいは歴史上賛仰（さんぎょう）される英雄たちから得たものである。組織をどれほどつくっても、また科学をどれほど集積しても、価値の観念を不必要なものにすることはできない。また科学だけでは、ある一つの価値が他の一つの価値よりも優先すべきだということを示すことはできない」

ンリー・ウォード・ビーチャーを訪れました。部屋に入ると、天の星座をあらわしたとても美しい天球儀があるのに目をつけて、ビーチャーに言いました。

「これは実に見事な天球儀ですね。だれがつくったのですか」

ビーチャーは、ちょっととぼけて、「だれがつくったかとおっしゃるのですか。だれもつくりはしませんよ。偶然ここに出てきたのですよ」と答えたということです。

しかし、おそらくインガーソルはその答えに満足しなかったでしょう。

私たちがこの美しい、しかも精巧な構造を持つ自然界を見るときに、偶然がこのような結果をあらわしたとは思われません。これらのもののつくり主が存在し、しかもその方が無限の力と知恵とを持っておられることを認めずにはいられません。

もちろん創造者なる神の存在についても、机上の論議では疑うこともできますが、神を認めない人々には、認める人々よりも、もっと多くの疑問が起こってくるでしょう。事実、単なる推理によっては、神の存在を証明することはむずかしいかもしれませんが、神の存在を肯定することが、私たちをとりまく宇宙の存在に対する唯一の満足な説明であり、自然な考えなのです。また一方、神の存在を否定することも、純粋に論理の上ではできないことをあわせて注意しておきたいと思います。

いわゆる進化論というものがあって、この世界の成立を説明し、創造者なる神を否定します。しかし、進化論はこの世界の成立について途中からの説明をしますが、本当の意味では初めからの説明はしていません。ある仮定から出発しているのです。「そういえば、神の存在だって一つの仮定ではないか」と言う人がいるかもしれませんが、結論的に言えば、単に推理の上からは創造者なる神の存在いかんは決定できません。人は聖書を信じるか、科学の仮定を信じるか、またはある哲学の考えに同意するかということになるのです。

そして私たちは聖書以外の説明が、それ自身のうちに多くの不備な点を持っていることを知っています。

それと反対に私たちは、聖書が信頼できる書物であることを確信できる多くの論拠を持っています。そして、人間の思考の自然の順序という点から考えても、人間の心の本来の欲求ということを考えても、神の存在を信じる方が、これ

【設問用紙の送り方】

・設問用紙に解答、名前、性別、住所など必要事項を明記の上、設問用紙のホッチキスを外すか、コピーやスキャンなどをしてご返送ください。

※郵便で送る場合

・市販の封筒、またはテキストに同封して送られてくる返信封筒で、次の宛先までお送りください。

〒241-8501　横浜市旭区上川井町 846
VOP バイブルスクール　行

１課ずつではなく、一緒に送られてきた複数課の設問用紙をまとめてお送りいただいて結構です。

※ FAX で送る場合

・郵送同様、必要事項をご記入の上、解答面を間違わないように次の番号まで送信してください。

FAX 番号：045-921-2319

・設問用紙に、名前などの必要事項を明記いただければ、別紙（FAX 送付状）をつけていただく必要はありません。

※ E メールで送る場合

・解答面をスキャンするなどして、PDF または JPEG データでお送りください。内容が読み取れるか送信前にご確認ください。件名に「真理への道答案」と必ず明記してください。

アドレス：info@vopjapan.net

送信後、担当者から受信メールをお送りします。休日を除き 72 時間以内にメールが来ない場合は、受信できていない可能性がありますので、ご確認ください。

★どの方法で解答を返送していただいても、添削した設問用紙と次のテキストは郵送いたします。

ご意見、ご感想をお聞かせください。

フリガナ お名前	登録番号
ご住所　〒 電話番号　　（　　）	

第5課 VOPバイブルスクール 真理への道講座・設問用紙

質問1 神について、ローマ人への手紙1章20節では何といっていますか。

- □ 人間の希望の投影
- □ 目に見えないので神の実在は信じられない
- □ 宇宙の創造者

質問2 聖書によると、美しく、しかも精巧な構造を持つ自然界は、どうやってできたと考えられますか。

- □ つくり主が存在する
- □ 進化
- □ 偶然

質問3 「神は人がそれなくして生きることができない方である」と言ったのは、だれですか。

- □ エイブラハム・リンカーン
- □ トルストイ
- □ ルーズベルト

質問4 聖書は、何を拝むようにすすめていますか。

- □ 自分でつくった神
- □ 世界を創造された神
- □ 富や権力の神

5

VOPバイブルスクール

設問用紙 - *d*

を否定するよりはるかに考えやすい、自然な、かつ確かな考えであると思われます。

一つのたとえを考えてみましょう。回転している機械の一部分だけを穴からのぞいている人がいるとします。はげしく回転している車輪と、それにかかっているベルトが見えています。そしてその人は、普通に考えるならば、モーターか何か動力があってその回転を起こしていると考えるでしょう。しかし懐疑的になって、自分はモーターを見ないから、あるいはその存在の証明ができないから、それを信じることができないと言ったらどうでしょうか。単に推理の上からはそれが間違っているということはできないでしょう。しかし、このような推理は健全なものではありません。少なくとも、回転している車輪を前にしての判断としては自然なものではないと思います。

私たちは日常生活においても、素直な気持ちで考えて自明だと受け取れることは、説明とか証明とかいう面倒なことを考えないで受け入れています。そしてそれを土台にして行動してみて、不都合が起こらなければ、それが真実であることを認めているのです。論理的証明がむずかしくても、体験を土台にしてその真実性を直観し、確信することができるのです。

結局この問題について、自ら意識的に目を閉じて、机上の推理にたてこもっている人を納得させる説明はおそらくないでしょう。人生の思わぬショックがその人の心の態度をゆるがせて信仰の目を開くのを待つよりほかないかもしれません。

神を認めることに困難を感じる人は、今まで述べてきたような考えをよりどころにして、神を信じ、聖書を通して神に従う道を学び、神を愛するように導かれてくるときに、私たちの全人格をもって神をはっきりと知ることができるようになるのです。

トルストイは「神は人がそれなくして生きることができない方である」と言いましたが、神を知ることは人間にとってこの上もない喜びと安定をもたらすものです。

聖書は、「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記1章1節）という単純ではありますが、まことに雄大な響きを持つ言葉で始まっています。永遠より永遠に存在される神が、全宇宙を創造さ

されたということです。神はそのはかり知れない力をもって、この世界をつくられた方です。

人々はいろいろな神を拝みます。自分の手でつくった神仏の像ばかりでなく、富や権力、名誉、あるいは知識などいろいろなものを拝んでいます。聖書は、世界を創造された神を礼拝するようにすすめています。

「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め」（ヨハネの黙示録14章7節）。

聖書の言葉を調べてみましょう。

イザヤ書45章18節

「天を創造された主、すなわち神であって／また地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない』」

ヨブ記12章7～9節

「しかし獣に問うてみよ、それはあなたに教える。空の鳥に問うてみよ、それはあなたに告げる。あるいは地の草や木に問うてみよ、彼らはあなたに教える。海の魚もまたあなたに示す。これらすべてのもののうち、いずれか／主の手がこれをなしたことを知らぬ者があろうか」

ヘブル人への手紙3章4節

「家はすべて、だれかによって造られるものであるが、すべてのものを造られたかたは、神である」

使徒行伝17章27節

「こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない」

瞑想のことば

神は多くの方法を用いてご自身を私たちに知らせ、私たちを神との交わりに導いておられます。自然は絶えず私たちに話しかけていますから、心を開いているならば、神のみ手のわざにあらわされた神の愛と栄光に強く打たれるのです。また、耳を傾けて聞くならば、自然界を通して神がお語りになっているのを知ることができます。緑の野、大きな樹木、花やつぼみ、過ぎて行く雲、雨のしずく、ささやく小川、天の栄光などはみな、私たちの心に語りかけ、これらいっさいを創造された神を知るようにと招いています。

私たちの救い主は、自然界の事物に関連づけて尊い教訓をお語りになりました。木や鳥、谷間の花、丘や湖、美しい天、それから日常のいろいろな出来事を真理のみ言葉と結びつけて、人々がどんなに忙しい仕事に追われているときでも、その教訓を思い出すことができるようになさいました。

神は、ご自分の子らがみ手のわざを感謝し、また、私たちの地上の住みかを単純に、しかも落ち着いた美しさをもって飾ってくださったことを喜ぶよう望まれます。神は美を愛されますが、外面的などんな美しさよりも品性の美しさを愛されます。神は、私たちが花のように純潔、単純で、静かな優しさを養うよう望んでおられるのです。

私たちが耳を傾けさえすれば、神の創造のみわざは、従順と信頼の尊い教訓を教えています。広く果てしない天空の中、太古から定められた軌道を進む星から、微細な原子に至るまで、自然界のものはみな、創造者のみ旨に従っています。神は、創造されたすべてのものを守り、支えておられます。広い宇宙の無数の諸世界を支えられる神は、同時に、何の恐れもなくさえずっている小さなすずめの必要をも顧みられるのです。人が一日の働きに出て行くときも、祈るときも、夜休むときも、朝起きるときも、また金持ちが立派な邸宅で宴会をするときも、貧しい人が子どもたちを集めて粗末な食事をするときも、その一つひとつを天の父は優しく見守っておられます。どんな涙も神の目にとまらないものはなく、どんなほほえみも見過ごしにされることはありません。

続きは、『キリストへの道』(改訂第3版、エレン・ホワイト著、福音社)、「神についての知識」の章をお読みください。

聖書の視点で歴史を見直すとき、
今をどう生きるかを学び、
明日への希望を見いだします。

明日への希望
エレン・G・ホワイト著
A5判／1,984頁
収録されている本――人類のあけぼの(上・下)、国と指導者(上・下)、各時代の希望(上・中・下)、患難から栄光へ(上・下)、各時代の大争闘(上・下)、キリストの実物教訓、キリストへの道、祝福の山。

キリストへの道(改訂第3版文庫判)
エレン・G・ホワイト著
文庫判／184頁

手軽に読めます！

各時代の希望
エレン・G・ホワイト著
3巻セット
文庫判／上巻496頁、中巻512頁、下巻504頁

聖書のことばは、
わたしたちを励まし、助け、希望へと導く宝です

みことば手帳
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／192頁

みことば手帳2 全員参加伝道編
手帳サイズ(横91mm×縦156mm)／176頁

聖書を直接学ぼう！

よくわかるヨハネの黙示録
金棋坤著　柳鍾鉉訳
A5判／200頁

発行：福音社
福音社のオンラインショップ　https://www.fukuinsha.com

表紙写真NOV／PIXTA

VOPバイブルスクール　真理への道講座
第５課　神

2017 年 10 月 15 日　初版第 1 刷発行　　2022 年 7 月 15 日　初版第 3 刷発行

〒 241-8501　横浜市旭区上川井町 846　045-921-1416(電話)　045-921-2319(Fax)

本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

本書は、『真理への道』(山形俊夫著、福音社、1962 年発行改訂版）を底本として、聖書通信講座用に編纂しました。
本文中の聖句で特記していない箇所は日本聖書協会発行『口語訳聖書』を使用しています。

1000プ

真理への道講座

第 1 課 人生の謎
第 2 課 目に見えない世界
第 3 課 解決の鍵、聖書
第 4 課 世界と生命の起源
第 5 課 神
第 6 課 人生を暗くするもの
第 7 課 イエスの生涯
第 8 課 放蕩息子
第 9 課 だれでも新しく生まれなければ
第 10 課 足りない一つのもの
第 11 課 人生の苦難
第 12 課 主にゆだねた生活
第 13 課 聖書の歴史観
第 14 課 世界の将来
第 15 課 終末は近いか
第 16 課 安息日
第 17 課 死の彼方
第 18 課 使命を持つ教会

VOPバイブルスクール